

公立文化施設指定管理者評価事業 評価結果報告書

平成28年6月24日

評価対象施設名	狛江市民ホール		
指定管理者名	一般財団法人狛江市文化振興事業団		
指定管理者連絡先	〒	201-0013	
	所在地	東京都狛江市元和泉1-2-1	
	TEL	03-3430-4106	
評価機関名	株式会社ぎょうせい総合研究所		
評価者氏名	評価者氏名		
	①	中井 雄彦	
	②	堀田 幸正	
評価対象年度	平成27年度		
評価実施期間	平成28年 5月 1日	～	平成28年 6月 30日
訪問調査日	平成28年 6月 16日		

一般財団法人
狛江市文化振興事業団理事長 殿

〒 136-8575
所在地 東京都江東区新木場1丁目18番11号
評価機関名 株式会社ぎょうせい総合研究所
電話番号 03-6892-6655
代表者氏名 代表取締役社長 成吉 弘次 印

C

Q

100

1. マネジメント機能の評価

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	最終評価
1.1 公共サービスを担う指定管理者として、ふさわしい安定的な経営姿勢とともに、長期的な視点に立った公立文化施設の運営方針等が示され、運営体制がとられている (公共サービスのマネジメント機能)	1.1.1 設置自治体の指定管理者制度の方針に従った施設の経営・運営戦略が明確に定められており、かつ、長期的な視点に立った運営方針等が示され、その戦略及び方針等に沿った事業展開がなされている (設置自治体の方針等との整合性と戦略)	5	指定管理者制度の方針に従った経営・運営戦略、運営方針等が明確に定められ、戦略及び方針等に沿った事業が中心となっており、指定管理者制度の方針に従った経営・運営戦略、運営方針等が明確に定められ、その戦略及び方針等に沿った事業を進めている	5	5
		4	指定管理者制度の方針に従った施設の経営・運営戦略、運営方針等はあるが形骸化しており、事業の内容も一定していない		
		3	指定管理者制度の方針に従った一定の方向性がある		
		2	指定管理者制度の方針に従った施設の経営・運営戦略、運営方針等はあるが形骸化しており、事業の内容も一定していない		
		1	指定管理者制度の方針に従った施設の経営・運営戦略、運営方針等はなく、事業の内容も一定していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.1.2 設置自治体に対して定期的に経営・運営情報の開示を行っている (情報開示、経営・運営の透明性)	5	毎月1回以上、設置自治体に経営・運営情報を開示・報告している	5	5
		4	毎月ではないが、毎年度複数回、設置自治体に経営・運営情報を開示・報告している		
		3	毎年度1回、設置自治体に経営・運営情報を開示・報告している		
		2	要求があれば、その都度開示・報告を行う程度である		
		1	ほとんど情報開示は行われていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.1.3 関係法令を遵守する体制が整備されている (コンプライアンス)	5	指定管理者としてのコンプライアンスに関する方針が定められ、法令遵守の組織的な体制(委員会の設置等)が構築されている	3	3
		4	指定管理者としてのコンプライアンスに関する方針が定められ、法令遵守に関して、職員への指導が徹底されている		
		3	指定管理者としてのコンプライアンスに関する方針は明確ではないが、法令遵守に関して、職員への指導が徹底されている		
		2	指定管理者としてのコンプライアンスに関する方針が定められているが形骸化しており、組織的に運用されていない		
		1	指定管理者としてのコンプライアンスに関する方針はなく、法令遵守の組織的な体制が整備されていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.1.4 利用者が平等・公平に施設利用ができるよう、配慮されている (平等利用の確保)	5	平等利用に関する職員への指導、適正な利用許可・調整、優先利用者への対応、これら3つすべてがマニュアル化されている	4	4
		4	上記の平等利用に関する配慮の一部はマニュアル化されていないが、すべて仕組みとしては機能している		
3		上記の平等利用に関する配慮はマニュアル化されていないが、すべて仕組みとしては機能している			
2		平等利用の配慮はすべて行われているものの、仕組みとしては機能していない			
1		平等利用に関する職員への指導、適正な利用許可・調整、優先利用者への対応、これらの中で行われていないものがある			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
1.1.5 行政評価、自己評価、第三者評価を実施し、評価結果に基づき改善を行っている (モニタリング)	5	行政評価、自己評価、第三者評価のすべてを定期的実施し、評価結果に基づき改善を行っている	4	4	
	4	行政評価、第三者評価のいずれかを定期的実施し、評価結果に基づき改善を行っている			
	3	自己評価のみを定期的実施し、評価結果に基づき改善を行っている			
	2	いずれかの評価は実施しているが、改善につなげる仕組みはない			
	1	評価制度等はない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
公共サービスのマネジメント機能ポイント			(1.1.1+1.1.2+1.1.3+1.1.4+1.1.5)÷(5-“0”の数)	4.20	4.20

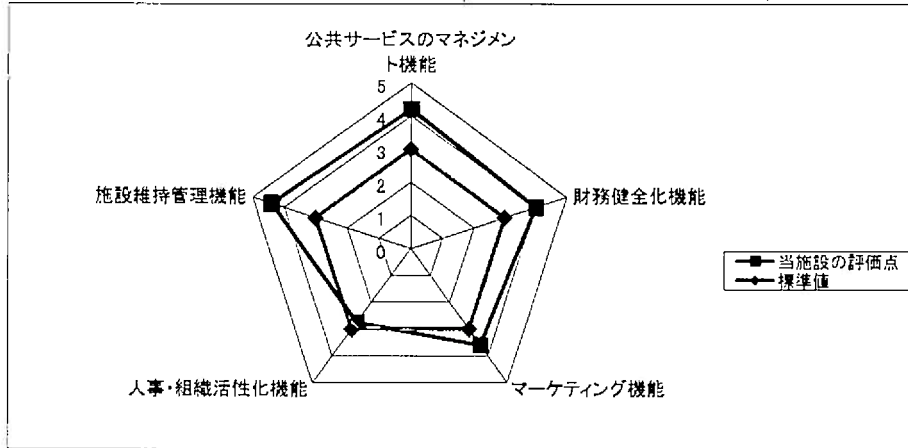
評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	目標評価
1.2 収支比率を高めるなど、施設の運用資金面からみた経営安定化に努めている (財務健全化機能)	1.2.1 施設全体としての収支比率が高く、行政への依存度を低く抑えている (経営収支)	5	全運営費用に対する事業収入の割合(収支比率)が、20%以上ある	5	5
		4	全運営費用に対する事業収入の割合(収支比率)が、15%~20%である		
		3	全運営費用に対する事業収入の割合(収支比率)が、10%~15%である		
		2	全運営費用に対する事業収入の割合(収支比率)が、5%~10%である		
		1	全運営費用に対する事業収入の割合(収支比率)が、5%以下である		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
		1.2.2 自主事業の採算性が高く、次の自主事業への展開が図りやすい状況を作っている (事業収支)	5		
	4		自主事業に対する収支比率が、45%~55%である		
	3		自主事業に対する収支比率が、35%~45%である		
	2		自主事業に対する収支比率が、25%~35%である		
	1		自主事業に対する収支比率が、25%以下である		
	0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.2.3 事業の運営に対して、国県等の助成金を活用することで、自己負担率を下げる工夫をしている (自己負担率)		5	事業費に対して国県等の助成金活用度が高い(40%以上の助成金利用率)	1
		4	事業費に対して国県等の助成金活用度がやや高い(30%~40%の助成金利用率)		
		3	一部の事業費に対して国県等の助成金活用している(20%~30%の助成金利用率)		
		2	事業費に対する国県等の助成金活用度はやや低い(10%~20%の助成金利用率)		
		1	事業費に対する国県等の助成金はほとんど利用していない(10%未満の助成金利用率)		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
		1.2.4 施設の運営経費(管理費)を低く抑えるための方策がとられ、収支改善への努力がなされている (管理費率)	5	事業収入に対する管理費の割合が、150%未満となっている(低い)	
	4		事業収入に対する管理費の割合が、150%~200%となっている(やや低い)		
3	事業収入に対する管理費の割合が、200%~250%となっている(普通)				
2	事業収入に対する管理費の割合が、250%~300%となっている(やや高い)				
1	事業収入に対する管理費の割合が、300%以上となっている(かなり高い)				
0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)				
1.2.5 バランスシート、損益計算書などを作成し、民間同様の経営管理を行っている (財務分析)	5		B/S、P/Lを毎年作成し、詳細な財務分析を実施し、経営管理に活用している	4	4
	4	B/S、P/Lを毎年作成しており、概略的に財務状況を把握している			
	3	B/S、P/Lは作成しているが、形式的に作成、報告するのみである			
	2	B/S、P/Lは作成していないが、行政財務会計システムレベルで状況を把握する程度			
	1	B/S、P/Lは作成していない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
	財務健全化機能ポイント				

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評点	最終評点
1.3 施設や事業のマーケティング機能を高め、収益を高める工夫をしている (マーケティング機能)	1.3.1 ニーズ調査等で住民ニーズを把握し、その結果を事業展開に活かしている (マーケティングリサーチ)	5	定期的、継続的に何らかの主体的な調査活動を実施し、結果を事業に反映させている	3	3
		4	事業実施の際のアンケートの他、適宜独自の調査を実施している		
		3	事業実施の際にアンケートをとり、その結果を集計・分析している		
		2	事業実施の際にアンケートをとるが、その分析や事業への展開には活かされていない		
		1	特に何もニーズ調査に類することは実施していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.3.2 施設や事業の宣伝を積極的に行い、事業の集客力を向上させている (プロモーション)	5	事業ごとにそれぞれプロモーションを検討し、それを活かした宣伝活動を実施している	5	5
		4	メールマガジン、HP、ケーブルテレビ等の新たな手法を採用して、宣伝活動を実施している		
		3	定期的な新聞チラシ、DMなどを活用した宣伝活動を実施している		
		2	パンフレットやポスターを配布する程度である		
		1	広報紙等に掲載する程度で、特別な宣伝活動は行っていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.3.3 チケット販売等に関して独自の販売チャネルを開拓し、販売力を高めている (チャネル)	5	全国的な(県をまたがる)、かつ多様な販売チャネルを構築している	3	3
		4	近隣の他の施設等との連携による広域的な販売チャネルを構築している		
		3	ITや広域的なメディアを活用した、幅広い販売チャネルを構築している		
		2	地域の一部の商店等にチケット販売に協力してもらう程度である		
		1	電話、郵送や窓口による受付、販売のみである		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.3.4 集客につながる価格戦略を有し、それを実行している (プライス)	5	ポイント性、セット販売等の独自の価格戦略を積極的に採用、展開している	4	4
		4	事業ごとに個別にさまざまな角度(集客能力、相場、事業コスト等)から検討を行っている		
3		世間相場並、あるいは経験則で設定している程度である			
2		条例や、近隣自治体との比較、前年度実績などにより、ほぼ自動的に決定されている			
1		価格に対する工夫や戦略はない(内部で検討はしていない)			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
1.3.5 顧客データベースの整備を進めるなどの、顧客管理がなされている (顧客管理)	5	高機能な顧客データベースが構築され、高度な顧客管理を実現している	3	3	
	4	顧客データベースが構築され、多様な活用がなされている			
	3	顧客データベースを用いたDM発送、メールマガジン等の配布等に活用されている			
	2	顧客データベースはあるが、活用はされていない			
	1	顧客管理は行っていない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
マーケティング機能ポイント			(1.3.1+1.3.2+1.3.3+1.3.4+1.3.5)÷(5-“0”の数)	3.60	3.60

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	評価結果
1.4 施設の運営にあたる職員等に人事管理面、組織管理面での配慮がなされ、高いモチベーションを保っている(人事・組織活性化機能)	1.4.1 施設の運営組織が専門家と一般職員等の組み合わせで構成されており、それぞれ役割を果たしている(組織体制)	5	ホール経営の専門家、芸術分野の専門家が施設の運営組織にそれぞれ常勤で居る	4	4
		4	一般職員、芸術専門員の組み合わせによる体制が組まれている		
		3	一般職員(常勤)、及び嘱託(事務関係)等のみの構成で、本庁の専務組織体制と変わりが無い		
		2	嘱託や非常勤、兼務の職員がほとんどで、通常は嘱託職員のみが常駐している		
		1	一般職員が兼務で業務にあたっているが、常駐はしていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.4.2 人材育成が計画的に行われている(人材育成の計画性)	5	職種等による人材育成の具体的計画が定められ、その上で、個人別に明確な育成計画を定め、計画に沿った研修等が実施されている	3	3
		4	職種等による人材育成の具体的計画が定められ、計画に沿った研修等が実施されている		
		3	人材育成の計画は定められていないが、人材育成に關する一定の方向性がある		
		2	人材育成の計画はあるが形骸化しており、研修等の内容も一定していない		
		1	人材育成の計画はなく、研修等の内容も一定していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.4.3 企画担当者への能力開発が積極的に行われ、企画面で高いレベルを確保している(企画能力向上)	5	企画能力の向上のため、定期的・継続的な教育プログラムを有し、実行されている	3	3
		4	企画能力の向上のため、定期的・継続的な教育プログラムがあり、その一部は実行されている		
		3	適宜、派遣研修などに参加させるなどで対応している		
		2	個別の自己啓発に頼っている状況である		
		1	特に意識した教育は実施していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.4.4 技術担当者への能力開発が積極的に行われ、技術面で高いレベルを確保している(技術能力向上)	5	技術能力の向上のため、定期的・継続的な教育プログラムを有し、実行されている	0	0
		4	技術能力の向上のため、定期的・継続的な教育プログラムがあり、その一部は実行されている		
3		適宜、派遣研修などに参加させるなどで対応している			
2		個別の自己啓発に頼っている状況である			
1		特に意識した教育は実施していない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
1.4.5 職員のモチベーションを高めるための人事管理上の配慮がなされている(動機付け機能)	5	目標管理、提案制度、報奨制度、自己申告制度などがあり、それぞれ機能している	1	1	
	4	目標管理、提案制度、報奨制度、自己申告制度などがあり、一部については機能している			
	3	目標管理、提案制度、報奨制度、自己申告制度などがあるが、あまり機能していない			
	2	何らかの制度はあるが、ほとんど知られていない。まったく活用されていない			
	1	特に制度はない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
人事・組織活性化機能ポイント			(1.4.1+1.4.2+1.4.3+1.4.4+1.4.5)÷(5-"0"の数)	2.75	2.75

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	検閲評点
1.5 施設の維持管理が適切に、効率的になされており、資産価値の維持に努めている(施設維持管理機能)	1.5.1 施設維持のための、中長期にわたる計画を有し、大規模な修繕等にも対応できる状況を作っている(施設維持計画機能)	5	中長期計画に基づき、施設の減価償却分程度は大規模修繕のために確保してある	5	5
		4	中長期計画があり、大規模修繕等の実施は可能な状態となっている(資金調達も可能)		
		3	計画は一応組まれているが、資金面での算段については不明の状態である		
		2	計画は設立時のもので実態は陳腐化しており、大規模修繕等への対応も考えられていない		
		1	計画はなく、今後の対応も考えられていない。場当たり的になっている。		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.5.2 日常の維持管理にかかる費用の節減が図られ、効率的な運営がなされている(維持管理費低減機能)	5	施設維持費率(=施設維持費/管理費)は低い(概ね30%以下)	3	3
		4	施設維持費率(=施設維持費/管理費)はやや低い(概ね30%~40%程度)		
		3	施設維持費率(=施設維持費/管理費)は標準的である(概ね40%~50%程度)		
		2	施設維持費率(=施設維持費/管理費)はやや高い(概ね50%~60%程度)		
		1	施設維持費率(=施設維持費/管理費)は高い(概ね60%以上)		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.5.3 クリーンネスが行き届き、気持ちのよい施設を維持している(整理・整頓・清掃)	5	整理・整頓・清掃がマニュアル化され、常時徹底されている	5	5
		4	マニュアルはないが、整理・整頓・清掃は徹底されている		
		3	公共スペースは、概ね整理・整頓・清掃が行き届いているが、それ以外の場所に問題がある		
		2	不快感まではいかないが、全体的に整理・整頓・清掃が不十分である		
		1	整理・整頓・清掃が行き届かず、不快感を与えている		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	1.5.4 委託業者を含めた施設の維持管理を進める全員が一丸となって、快適な施設を演出している(清潔・機)	5	職員の服装や挨拶励行などがマニュアル化され、常時徹底されている	4	4
		4	マニュアルはないが、清潔な服装や挨拶は徹底されている		
3		公演等の事業が実施される際には、徹底されるが、それ以外のときでは不十分である			
2		来館者からクレームを受けるまでには至らないが、徹底されていない			
1		清潔・機が徹底せず、来館者からのクレームも多い			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
1.5.5 防災、防犯、その他安全への配慮がなされ、安心した施設の活用を実現している(リスクマネジメント)	5	防災、防犯、その他緊急時対応のマニュアルが作成され、施設の課題を踏まえて定期的に訓練がなされるなど徹底されている	5	5	
	4	マニュアルはないが、施設の課題を踏まえて定期的に防災、防犯訓練、その他緊急時対応が徹底されている			
	3	法律(消防法等)に定められた範囲以上で訓練や徹底がなされている			
	2	法律(消防法等)に定められた範囲で防災訓練が実施されている程度			
	1	防災対策は形式的になっており、非常時には不安がある			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
施設維持管理機能ポイント			(1.5.1+1.5.2+1.5.3+1.5.4+1.5.5)÷(5-"0"の数)	4.40	4.40

1. マネジメント機能の評価	
1.1 公共サービスを担う指定管理者としてふさわしい安定的な経営姿勢が示され、運営体制がとられている(公共サービスのマネジメント機能)	4.20 ポイント
1.2 収支比率を高めるなど、施設の運用資金面からみた経営安定化に努めている(財務健全化機能)	4.00 ポイント
1.3 施設や事業のマーケティング機能を高め、収益を高める工夫をしている(マーケティング機能)	3.60 ポイント
1.4 施設の運営にあたる職員等に人事管理面、組織管理面での配慮がなされ、高いモチベーションを保っている(人事・組織活性化機能)	2.75 ポイント
1.5 施設の維持管理が適切に、効率的になされており、資産価値の維持に努めている(施設維持管理機能)	4.40 ポイント



マネジメント機能の全体評価と課題

マネジメント機能については、「1.1 公共サービスのマネジメント機能」、「1.2 財務健全化機能」、「1.5 施設維持管理機能」の3項目は、評点4.00ポイント(やや高いレベル)以上を維持しており、評点は全5項目いずれも前年度からの変化はない。

「1.2 財務健全化機能」については、経営収支比率が前年度の数字を上回っており、修繕等による休館日の増加や観客動員率の低下に伴い、入場料収入、貸館料収入はいずれも前年度を下回った反面、補助金収入等が前年度を上回った結果、収入全体としては前年度から増加となっており、支出の増加を補って経営収支比率の改善につながった。なお、収支に関する項目の評点はいずれも5.00ポイント(高いレベルにある)で、行政への依存度や運営経費の抑制、自主事業の採算性の面で、高い評価を維持している。

「1.3 マーケティング機能」については、「9人のピアニストによるピアノ・ソナタ」において当施設では初めてセット販売を導入しており、評点は前年度と変わらないものの、新たな価格戦略が実行されている。

「1.4 人事・組織活性化機能」については、前年度と同様の評点となっており、前年度に職員の増員という人員体制の変化があったものの、人事制度の面で、評点の上昇につながるような取り組みは見られなかった。

今後の課題としては、前年度から引き続き「1.1 公共サービスのマネジメント機能」、「1.2 財務健全化機能」、「1.5 施設維持管理機能」の維持・向上とともに、販売チャンネルの多様化やセット販売をはじめとする独自の価格戦略の積極的な活用など「1.3 マーケティング機能」の向上のほか、指定管理事業の提案書に盛り込まれているスタッフ教育の徹底をはじめ「1.4 人事・組織活性化機能」に関する取り組みの充実が求められる。

また、リスクマネジメントに関して、複合ビルの4・5・6階に位置する立地を踏まえて、警察などと連携を図りつつ、防犯・セキュリティ面の強化を求めたい。

マネジメント機能向上のための改善・改革の方向性

当施設を運営する一般財団法人狛江市文化振興事業団では、総合型の文化芸術振興施設(地域の文化芸術振興を基盤として、戦略的に貸館を行い、多彩な自主事業を展開する施設)としての機能充実を目指すステップとして、『ファーストステップ:準備期(平成21~22年度)』、『セカンドステップ:実施・評価・検討期(平成23~25年度)』、そして、平成26年度からの第三期指定管理期間については、『サードステップ:充実期(平成26年度~)』と位置づけている。

今後の改善・改革の方向性については、評点が前年度とすべての項目で同じという結果が表しており、従来からの3つの課題「人材育成に関する取り組みの強化」、「防犯対策をはじめとするリスクマネジメントの強化」、「マーケティング機能の強化」について、前進があまり見られないことを踏まえて、これらの取り組みを着実に進めることである。

「人材育成に関する取り組みの強化」にあたっては、企画能力の向上のために、人員が少数である中で外部研修への積極的な参加に努めている点は評価できるものの、指定管理事業の提案書に盛り込まれている研修メニュー(コンプライアンス研修、ホスピタリティの高度化研修等)の着実な実施が求められる。また、多くの来館者を迎える公立文化施設の指定管理者として、防犯面の取り組みの強化は不可欠であり、まずは警察と連携した職員研修や講習会の開催など、すぐに行えるところから始めて、その後、暴漢等不審者を想定した訓練を実施するなど、着実に取り組みを実行していく必要がある。

さらに、マーケティング機能の強化にあたっては、販売チャンネルの多様化に向けた検討を行っているものの、その実現には至っておらず、観客動員率の向上、収入の増加のために、今後も引き続き効果的な販売チャンネルを模索していく必要があるとともに、もう一つの課題である顧客データベースの活用を含めて、具体的な取り組みが期待される。

2. 文化芸術振興機能の評価

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評定	推奨評定
2.1 多くの人に質の高い文化芸術に接する機会を提供している (鑑賞機能)	2.1.1 貸館、自主事業を問わず、芸術家・団体による多くの文化芸術公演が実施されている (文化芸術公演率)	5	文化芸術公演率＝文化芸術公演数/全イベント数(%)が65%以上ある	5	5
		4	文化芸術公演率＝文化芸術公演数/全イベント数(%)が55%～65%となっている		
		3	文化芸術公演率＝文化芸術公演数/全イベント数(%)が45%～55%となっている		
		2	文化芸術公演率＝文化芸術公演数/全イベント数(%)が35%～45%となっている		
		1	文化芸術公演率＝文化芸術公演数/全イベント数(%)が35%未満となっている		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.1.2 文化芸術公演に多くの聴衆・観客を集めている (観客動員率)	5	年間を通じて90%を超える観客動員がある(大要よく入っている、ほぼ満席)	4	3
		4	年間を通じて70～90%程度の観客動員がある(まあまあ入っている)		
		3	年間を通じて50～70%程度の観客動員がある(空席が目立つことが多い)		
		2	年間を通じて30～50%程度の観客動員がある(あまり入っていない)		
		1	年間を通じて観客動員率は30%に満たない(ほとんど入っていない)		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.1.3 貸館、自主事業を問わず、高レベルな(質の高い、一流の、著名な)芸術家・団体による公演が多数行われている (高レベル公演数)	5	年間を通じて相当数の高レベルな芸術家・団体による公演が実施されている	5	5
		4	年間を通じて回数(2～3回)は高レベルな芸術家・団体による公演が実施されている		
		3	年間1回程度の割合では、高レベルな芸術家・団体による公演がある		
		2	ごくまれ(数年に1回程度)に高レベルな芸術家・団体による公演が実施される		
		1	高レベルといえる芸術家・団体による公演は行われていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.1.4 文化芸術公演の鑑賞者に深い感銘を与えている (鑑賞感動率)	5	鑑賞後アンケートの結果は「満足」が90%以上である(満足してもらったという十分な感銘)	4	5
		4	鑑賞後アンケートの結果は「満足」が70～90%(概ね満足してもらったという感銘)		
3		鑑賞後アンケートの結果は「満足」が50～70%(よく判らない、どちらとも言えない)			
2		「満足」と言ってくれる人があまりいない(50%未満)(あまり満足感を与えていないようだ)			
1		鑑賞後の不満が多く、個別の公演事業そのものの見直しを迫られている			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
2.1.5 他施設との連携等により、鑑賞の機会をより多く与える工夫をしている (鑑賞機会の多様化)	5	施設が中心となり、他の施設への鑑賞ツアーを組むなど、幅広い鑑賞機会を作り上げている	3	3	
	4	特定の施設、特定の事業のみ連携を図り、鑑賞者を送り出すなどの工夫をしている			
	3	他の施設の公演事業などを積極的に紹介し、案内している			
	2	パンフレットを置いておく程度で特に連携を意識していない			
	1	他の施設との連携はほとんどない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
鑑賞機能ポイント			(2.1.1+2.1.2+2.1.3+2.1.4+2.1.5)÷(5-“0”の数)	4.20	4.20

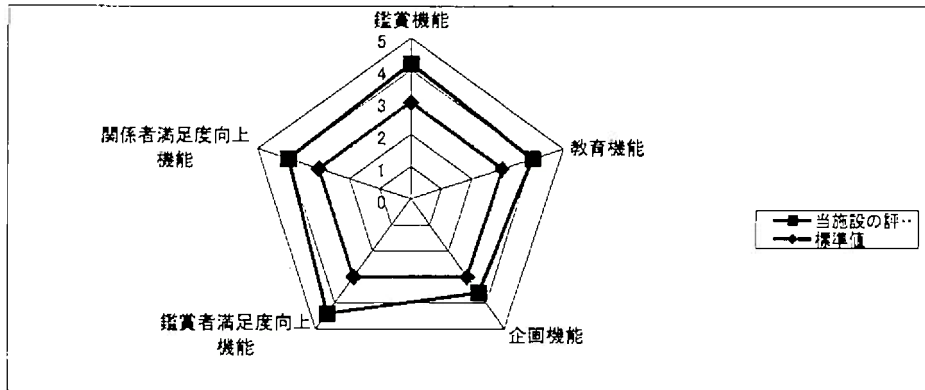
評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	関係評価
2.2 芸術家を育てる、あるいは鑑賞者を育てる活動を実践している(教育機能)	2.2.1 芸術家を育てる活動(教育講座)が継続的・活発に行われている(育成指導機能)	5	芸術家を育成するためのプロの指導による講座を複数有しており、継続的に実施している	4	4
		4	芸術家を育成するためのプロの指導による講座を有しており、継続的に実施している		
		3	継続的とはいえないがプロの指導者を招聘し、指導を行うこともある		
		2	公演等があった場合に時間があれば指導を頼む程度		
		1	まったく実施していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.2.2 幅広く文化芸術を広げる普及・啓発活動(アウトリーチ)により、文化芸術に興味をもってもらおう努力をしている(アウトリーチ活動)	5	アウトリーチ活動を活発に展開し、その聴衆者も非常に多い(年間人口比10%程度)	4	4
		4	アウトリーチ活動を継続的に展開し、その聴衆者もやや多い(年間人口比5%程度)		
		3	アウトリーチ活動を数回実施しているが、聴衆者はあまり多くない(年間人口比1%程度)		
		2	アウトリーチ活動をごくまれに実施しており、聴衆者も少ない(年1回/学校へ行く程度)		
		1	アウトリーチ活動は行っていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.2.3 公演会の開催など、新人芸術家への活動機会を与え、支援を行っている(新人芸術家支援)	5	新人芸術家への支援を毎年継続的に実施している(10名(組)以上に対して実施)	4	3
		4	新人芸術家への支援を毎年継続的に実施している(5~9名(組)に対して実施)		
		3	新人芸術家への支援を毎年継続的に実施している(若干名(組)に対して実施)		
		2	数年に1度程度の割合で、若干名に対して実施している		
		1	特に関係する事業は行っていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.2.4 学校と一体となって文化芸術教育活動への支援活動を行っている(学校教育支援)	5	小中高校を対象とした文化芸術活動への継続的な支援を実施(企画や指導などの積極的支援)	5	5
		4	小中高校を中心とした文化芸術活動への継続的な支援を実施している(会場提供などの支援)		
3		教育的な視点の公演活動を招致し、定期的に開催している程度(映画鑑賞など)			
2		継続的ではないが要望があればその都度個別に対応する程度			
1		要望もなく、支援活動も行っていない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
2.2.5 鑑賞をより楽しくするため、楽器の構造、舞台や旋盤の構造、鑑賞の仕方などを解説する鑑賞者教育を実施している(鑑賞者教育)	5	定期的に月に1回程度の割合で行っている	4	4	
	4	定期的に年数回程度は行っている			
	3	不定期であるが1年に1回程度は行っている			
	2	ごくまれに実施することがある			
	1	まったく実施していない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
教育機能ポイント			(2.2.1+2.2.2+2.2.3+2.2.4+2.2.5)÷(5-"0"の数)	4.20	4.00

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	検算評価
2.3 質の高い文化芸術公演を企画し、これを住民に提供している (企画機能)	2.3.1 自主事業を積極的に展開している (事業実施機能)	5	自主事業比率(自主事業件数/全公演件数)が30%以上ある	4	4
		4	自主事業比率(自主事業件数/全公演件数)が20~30%ある		
		3	自主事業比率(自主事業件数/全公演件数)が10~20%ある		
		2	自主事業比率(自主事業件数/全公演件数)が5~10%ある		
		1	自主事業比率(自主事業件数/全公演件数)は5%未満である		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.3.2 施設のコネクトが明確になっており、そのコネクトに従った事業活動が展開されている (コネクト表現機能)	5	コンセプト公演率(コンセプトを表現する公演数/全公演数)が30%以上ある	5	5
		4	コンセプト公演率(コンセプトを表現する公演数/全公演数)が10~30%程度ある		
		3	コンセプト公演率(コンセプトを表現する公演数/全公演数)が5~10%程度ある		
		2	コンセプトはあるが、公演との関連はほとんどない		
		1	コンセプトそのものが不明確である		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.3.3 企画にあたって、内容や条件等を担保するための検討を制度的に実施している (企画力向上機能)	5	住民代表、専門家等を含めた検討が定期的に行われ、企画に反映されている	4	4
		4	内部の芸術専門員等による検討結果を委員会等にかける方式で企画を行っている		
		3	内部の職員を中心とした検討結果を検討委員会等にかける方式で企画を行っている		
		2	内部の検討のみで、外部の意見は入らない		
		1	担当者レベルのほぼ独断で企画を行っている		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.3.4 質の高い公演を招聘するための情報収集に努めている (情報収集機能)	5	情報収集のために職員自らが積極的に外部へ出て、直接関係者と会うなどの努力をしている	4	4
		4	人的ネットワーク(他施設の職員、芸術家との関係等)を利用した情報収集が中心となっている		
3		専門誌や、資料等による情報収集が中心となっている			
2		業者からの情報(持ち込まれる情報)が中心となっている			
1		特に情報収集活動は行っていない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
2.3.5 他施設との連携企画を進めている (連携機能)	5	他の施設とのネットワークによる連携企画事業が定着化し、複数の実績がある	1	1	
	4	他の施設とのネットワークによる連携企画事業を既に実施した			
	3	他の施設とのネットワークによる連携企画を現在進めている			
	2	他の施設とのネットワークによる連携企画について、調査・検討中である			
	1	他の施設とのネットワークによる連携企画については未だ何も考えられていない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
企画機能ポイント			(2.3.1+2.3.2+2.3.3+2.3.4+2.3.5)÷(5-“0”の数)	3.60	3.60

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	評価評点
2.4 鑑賞機会の提供とともに鑑賞するための環境整備に努めている (鑑賞者満足度向上機能)	2.4.1 鑑賞のための負担を軽減している (負担軽減)	5	質の高い文化芸術公演であっても、特段の配慮をし、相当価格を安く設定している	4	5
		4	質の高い文化芸術公演であっても、配慮がなされ、一般よりもやや安い		
		3	相場価格(近隣自治体並)だが、他の面での配慮(各種割引等)を行い、負担の軽減を図っている		
		2	相場価格(近隣自治体並)より若干高めと言われている		
		1	特に負担の軽減という施策はとっておらず、むしろ高い方とされている		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.4.2 公演内容以外にも、そのコンセプトを体感できるような演出を企画し、実践している (非日常性の演出)	5	多数の公演において、そのコンセプトに合った演出を企画し、実践している(3回以上)	4	4
		4	いくつかの公演において、そのコンセプトに合った演出を企画し、実践している(1~2回程度)		
		3	公演のコンセプトにあった演出を企画し、実践することもある(数年に1回程度)		
		2	公演者や演出家から依頼があった場合のみ対応する		
		1	特に演出は行っていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.4.3 公演内容以外にも、よい雰囲気での鑑賞できる環境を演出している (環境の演出)	5	公演時における運用マニュアル・チェックリスト等が定められており、職員一丸となって良い環境を作り出している	4	4
		4	マニュアル等はないが、毎回、相互チェックをするなど、職員一丸となって良い環境を作る工夫をしている		
		3	一般的なマニュアル・チェックリストがあり、一般的な配慮はなされている		
		2	特にマニュアル等はなく、公演時の対応は職員個々人の判断に任されている		
		1	特段、公演時の雰囲気等には気を使っていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.4.4 公演開催時には、鑑賞者の施設利用面での配慮を行い、満足度を高める工夫をしている (施設環境満足度)	5	すべての鑑賞公演について、事前に状況を確認・予測し、必要な対応をとっている	4	4
		4	いくつかの項目(トイレ、駐車場等)について、手順を定めて一定の対応を事前にとっている		
3		手順は定められていないが、経験的な予測に基づき、個別に対応を図っている			
2		現場で何かあれば、その都度、対応している			
1		特に施設利用のための、事前の配慮は行っていない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
2.4.5 鑑賞後のアンケート、満足度調査等を実施し、運用面に対する満足度の確認、改善を心がけている (運用の継続的改善)	5	公演ごとのアンケート等を実施し、その分析結果から改善テーマを発見、改善がなされている	5	5	
	4	定番のアンケート等を実施し、その分析結果から改善テーマを発見、改善がなされている			
	3	定番のアンケート等を実施しているが、結果を集計、報告する程度となっている			
	2	定番のアンケート等は実施しているが、目を通す程度の活用状況である			
	1	アンケート等は実施しておらず、運用改善の手がかりはない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
鑑賞者満足度向上機能ポイント			(2.4.1+2.4.2+2.4.3+2.4.4+2.4.5)÷(5-“0”の数)	4.20	4.40

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	職員評価
2.5 芸術家、及び公演関係者が活動しやすい環境作りに努めている (関係者満足度向上機能)	2.5.1 芸術家・公演者等への配慮を行うことで、これらの満足度を高めている (公演者満足度)	5	さまざまな配慮を行い、芸術家・公演者などからの運営に対する評価が極めて高い	5	5
		4	配慮を行い、芸術家・公演者などからの運営に対する評価が高い		
		3	基本的な配慮はしており、芸術家・公演者などからの運営に対する評価が一部では高い		
		2	言われれば対応する程度で、芸術家・公演者などからは運営に対する特段の反応はない		
		1	任せきりとなっており、芸術家・公演者などからは運営に対する不満の声がある		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.5.2 プロモータ、脚本家、演出家、音楽監督等のスタッフへの配慮を行うことで、これらの満足度を高めている (スタッフ満足度)	5	さまざまな配慮を行い、スタッフなどからの運営に対する評価が極めて高い	4	4
		4	配慮を行い、スタッフなどからの運営に対する評価が高い		
		3	基本的な配慮はしており、スタッフなどからの運営に対する評価が一部では高い		
		2	言われれば対応する程度で、スタッフなどからは運営に対する特段の反応はない		
		1	任せきりとなっており、スタッフなどからは運営に対する不満の声がある		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.5.3 照明、音響、舞台技術等の技術者への配慮を行うことで、これらの満足度を高めている (技術者満足度)	5	さまざまな配慮を行い、技術者などからの運営に対する評価が極めて高い	3	5
		4	配慮を行い、技術者などからの運営に対する評価が高い		
		3	基本的な配慮はしており、技術者などからの運営に対する評価が一部では高い		
		2	言われれば対応する程度で、技術者などからは運営に対する特段の反応はない		
		1	任せきりとなっており、技術者などからは運営に対する不満の声がある		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	2.5.4 その他の関係者(報道関係者、搬出入業者等)への配慮を行うことで、これらの満足度を高めている (関係者満足度)	5	さまざまな配慮を行い、その他関係者からの運営に対する評価が極めて高い	3	3
		4	配慮を行い、その他関係者からの運営に対する評価が高い		
3		基本的な配慮はしており、その他関係者からの運営に対する評価が一部では高い			
2		言われれば対応する程度で、その他関係者からは運営に対する特段の反応はない			
1		任せきりとなっており、その他関係者からは運営に対する不満の声がある			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
2.5.5 施設側から公演責任者を出すなど、公演の成功に向けての総合的な協力体制を敷いている (総合協力体制)	5	すべての公演に施設側から公演責任者等を出し、情報の一元化と状況への対応を図っている	3	3	
	4	一部の公演では施設側から公演責任者等を出し、情報の一元化と状況への対応を図っている			
	3	企画担当、技術担当などで個別に対応しており、総合的な公演責任者は置いていない			
	2	担当者はいるが、言われれば分かる範囲で対応する程度である			
	1	ほぼ任せきりの状態となっている			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
関係者満足度向上機能ポイント			(2.5.1+2.5.2+2.5.3+2.5.4+2.5.5)÷(5-"0"の数)	3.60	4.00

2. 文化芸術振興機能の評価	
2.1 多くの人に質の高い文化芸術に接する機会を提供している(鑑賞機能)	4.20 ポイント
2.2 芸術家を育てる、あるいは鑑賞者を育てる活動を実践している(教育機能)	4.00 ポイント
2.3 質の高い文化芸術を発掘し、住民に提供している(企画機能)	3.60 ポイント
2.4 鑑賞機会の提供とともに鑑賞するための環境整備に努めている(鑑賞者満足度向上機能)	4.40 ポイント
2.5 芸術家、及び公演関係者が活動しやすい環境作りを努めている(関係者満足度向上機能)	4.00 ポイント



文化芸術振興機能の全体評価と課題

文化芸術振興機能については、「2.1 鑑賞機能」、「2.2 教育機能」、「2.4 鑑賞者満足度向上機能」の3項目が前年度と同様に評点4(やや高いレベル)以上を維持し、また、「2.5 関係者満足度機能」は前年度の3.60ポイントから4.00ポイントに上昇した。そして「2.3 企画機能」は、評点3(標準点)以上を維持している。

「2.1 鑑賞機能」については、観客動員率が70%を下回った反面、鑑賞者アンケートに基づく鑑賞感動率(公演に満足した割合)が90%以上に上昇した結果、評点としては前年度と変わらない4.20ポイントを維持している。観客動員率の低下は、実施事業での全体的な低下傾向とともに、当施設で初めて導入したセット販売対象の公演「9人のピアニストによるピアノ・ソナタ」において、9つの公演で観客動員率にばらつきがあったことによるものである。

「2.2 教育機能」については、前年度の評点4.20ポイントから4.00ポイントに低下しており、これは新人芸術家への支援の場ともなっているロビーでの公演機会について、前年度と比べて新人芸術家の公演数が減ったことによるものである。そのほか、学校の部活動に対する専門家による指導をはじめ、「音楽の街—狛江」構想の「児童・生徒の音楽活動の推進、将来の『音楽の街』の担い手育成」を担う学校協力事業は継続的に実施されている。

「2.4 鑑賞者満足度向上機能」については、前年度の評点4.20ポイントから4.40ポイントに上昇しており、これは鑑賞者の負担軽減にあたり、高校生以下のチケット代への配慮とともに、公演によっては他ホールと比べて1,000円以上安く設定されていることを高く評価した結果である。また、非日常性の演出、環境の演出、施設環境満足度、運用の継続的改善のいずれの機能も評点4(やや高いレベル)以上を維持している。

「2.5 関係者満足度向上機能」については、前年度の評点3.60ポイントから4.00ポイントに上昇しており、これは技術者満足度について、舞台の対応について聞いたアンケートに基づき評価した結果によるものである。

課題としては、今後も引き続き、事業計画に基づき「鑑賞型事業」、「自主制作型事業(ロビー事業やアウトリーチ活動、オープンハウス等)」、「支援型事業(市民団体や新人・若手へ人的・経済的に支援する事業)」の計画的な実施と評価・見直しによる「2.1 鑑賞機能」、「2.2 教育機能」、「2.4 鑑賞者満足度向上機能」の維持・向上とともに、前年度からあがっている課題として、アウトリーチ活動については、個々の活動に留まらず、1年の活動の成果を総括するような企画やイベント、そして、アウトリーチ活動をきっかけとしてホールでの公演開催につなげていく取り組みを検討課題としてあげる。

文化芸術振興機能向上のための改善・改革の方向性

当施設が地域の文化芸術振興において目指すべき方向性はこれまでと変わらず、「鑑賞型事業」を中心に、「自主制作型事業」と「支援型事業」を加えた『総合型の文化芸術振興施設(地域の文化芸術振興を基盤として、戦略的に貸館を行い、多彩な自主事業を展開する施設)』である。

27年度は、「鑑賞型事業」としてホール開館20周年記念のシリーズ企画「ベートーヴェンをたたく 第九」、無料のご招待公演「沖繩伝統芸能・組踊」をはじめ、ジャンルを問わない多様な事業を実施された。また、「自主制作型事業」は、6回目を数えるオープンハウスでは、市内在住の邦楽演奏家などと企画し、和楽器をテーマにプロによる演奏のほか、小中高校生の参加演奏などが行われたほか、市内小中学校の卒業生で海外を拠点に活躍する音楽家を迎えた「エコール・マ・アンサンブルコンサート」の開催、また、ロビー公演では「平成24年度エコール・マ・ホール新人・若手アーティストに対する文化芸術支援事業」の対象者がメンバーとして参加する四重奏ほか、狛江になじみのある演奏家による公演が開催されており、狛江ならではの「自主制作型事業」の発展・充実とともに、「支援型事業」を通じた教育機能の成果が見られた。

今後の改善・改革の方向性としては、引き続き、当施設が目指すべき方向性『総合型の文化芸術振興施設』に沿った事業展開と、「音楽の街—狛江」推進事業と「絵手紙発祥の地—狛江」事業をはじめ、狛江らしい文化芸術の総合的な振興を担う事業の発展・充実が求められる。

また、鑑賞者の公演に対する満足度、公演者の施設対応への満足度はいずれも高く、平成27年度は設備や対応の大きな改善につながるような具体的な要望や苦情は見られないが、引き続きアンケート等を通じた要望や苦情等の把握と、それに対する迅速な対応に期待したい。

3. 地域交流・地域貢献機能の評価

評価項目/内容		評点	評価の基準	■已評値	■最終評値
3.1 住民が主体的に実施する文化芸術活動に「利用しやすい場の提供」を行うことで支援している（活動・交流の場の提供機能）	3.1.1 発表会やその練習などの住民（学校や文化芸術団体等を含む）の文化芸術活動のために施設が活用されることが多い（住民活用度）	5	住民活用度（住民活動活用日数/開館日数）が30%以上ある	5	5
		4	住民活用度（住民活動活用日数/開館日数）が20～30%ある		
		3	住民活用度（住民活動活用日数/開館日数）が10～20%ある		
		2	住民活用度（住民活動活用日数/開館日数）が5～10%ある		
		1	住民活用度（住民活動活用日数/開館日数）は0～5%しかない		
		0	元々そのような活動を目的としていない（評価対象外項目）		
	3.1.2 開館時間（利用可能時間）が住民にとって使いやすいものとなっている。（開館時間）	5	開館率（総開館時間数/365日×24時間）は50%以上である（相当の便宜を図っている）	4	3
		4	開館率（総開館時間数/365日×24時間）は40～50%である（開館時間の延長あり）		
		3	開館率（総開館時間数/365日×24時間）は30～40%である（週1回のみ休館程度）		
		2	開館率（総開館時間数/365日×24時間）は20～30%である（役所と同等レベル）		
		1	開館率（総開館時間数/365日×24時間）は20%未満である		
		0	元々そのような活動を目的としていない（評価対象外項目）		
	3.1.3 使用料金が安価に抑えられ、住民にとって使いやすいものとなっている（利用料金）	5	戦略的に（明確な意図をもって）相当安価に抑えられている	3	3
		4	同規模の施設より安価に抑えられている		
		3	普通程度（同規模の施設と同程度）		
		2	やや高い		
		1	相当高く、一般住民が使用することはかなり困難と思われる		
		0	元々そのような活動を目的としていない（評価対象外項目）		
	3.1.4 その他の利用面での利便性向上に努めている（利用利便性）	5	利用者に対して、さまざまな特別な便宜を図っている	4	4
		4	利用者に対して、要望があれば可能な限り対応をすることとしている		
3		一応、規定どおりの運用を行うが、担当者レベルの判断で柔軟な対応を行っている			
2		原則的には規定どおりの運用であるが、特別な場合に限り、対応を行う程度である			
1		一切、特別な配慮はしていない。規定どおりの運用を行う。			
0		元々そのような活動を目的としていない（評価対象外項目）			
3.1.5 住民が普段（特に公演等が何もないとき）でも施設に集えるような工夫をしている（集いの場）	5	施設に来てもらえるような積極的な工夫、努力を行っており、いつも誰かがロビー等に居る	0	0	
	4	いくつかの工夫を行っており、その結果、人が居ることが多い			
	3	特に意識した工夫をしていないが、何もないときでも人が居ることが多い			
	2	特に工夫はしておらず、何もないときはほとんど人は居ない			
	1	むしろ用のない人の入館を排除している			
	0	元々そのような活動を目的としていない（評価対象外項目）			
活動・交流の場の提供機能ポイント			(3.1.1+3.1.2+3.1.3+3.1.4+3.1.5)÷(5-“0”の数)	4.00	3.75

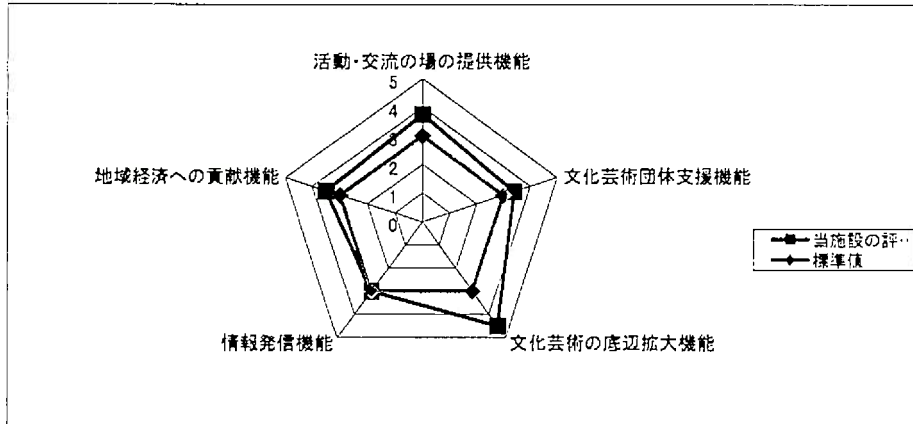
評価項目/内容		評点	評価の基準	市民評価	職員評価
3.2 地域の文化芸術団体等を支援することで、住民の文化芸術活動を活性化させている (文化芸術団体支援機能)	3.2.1 文化芸術団体への支援を積極的に行い、その活性化を図っている (団体活性化)	5	補助金等による支援、指導者の派遣等の支援などハード、ソフト両面で積極的な支援を行っている	5	5
		4	指導者の派遣、事務局の設置などソフト面の支援を中心に行っている		
		3	補助金等による支援など、ハード面での支援を中心に行っている		
		2	特段、制度化した支援は行っていないが、相談があれば対応する程度		
		1	特に、何も支援はしていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.2.2 ワークショップ活動を通じて、住民参加を促進している (ワークショップ活性化)	5	ワークショップ活動が盛んに(複数)行われ、施設の運営にも反映されている	3	3
		4	ワークショップ活動が行われ、施設の運営にも一部は反映されている		
		3	ワークショップ活動はあるが、施設の運営とは直接関係していない		
		2	設立準備段階では活発な活動があったが、現在は機能していない		
		1	ワークショップ活動は行われていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.2.3 高齢者施策との連携として、高齢者のグループの文化活動を積極的に支援している (高齢者団体支援)	5	継続的に発表の場を作るなど、企画面から支援している(高齢者のカラオケ大会など)	3	3
		4	企画や相談が持ち込まれれば、かなりの面で支援を行っている		
		3	申し入れがあれば、規定に従い通常の配慮をする程度		
		2	申し入れがあっても、公民館を紹介するなど原則的には支援を行わない		
		1	特に申し入れもなく、配慮も行わない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.2.4 福祉施策との連携として、福祉グループ(障害者グループ等)の文化活動を積極的に支援している (福祉団体支援)	5	継続的に発表の場を作るなど、企画面から支援している	3	3
		4	企画や相談が持ち込まれれば、かなりの面で支援を行っている		
3		申し入れがあれば、規定に従い通常の配慮をする程度			
2		申し入れがあっても、公民館を紹介するなど原則的には支援を行わない			
1		特に申し入れもなく、配慮も行わない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
3.2.5 その他のサークルやグループ等の文化活動(趣味サークル等)を積極的に支援している (サークル活性化)	5	継続的に発表の場を作るなど、企画面から支援している(中高校生のロックバンド大会など)	3	3	
	4	企画や相談が持ち込まれれば、かなりの面で支援を行っている			
	3	申し入れがあれば、規定に従い通常の配慮をする程度			
	2	申し入れがあっても、公民館を紹介するなど原則的には支援を行わない			
	1	特に申し入れもなく、配慮も行わない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
文化芸術団体支援機能ポイント			$(3.2.1+3.2.2+3.2.3+3.2.4+3.2.5) \div (5-"0"の数)$	3.40	3.40

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	最終評価
3.3 住民が誰でも文化芸術に親しめるような工夫をしている(文化芸術の底辺拡大機能)	3.3.1 会員組織(友の会等)をつくり、会員サービスに努めることで加入者を増やしている(会員組織化)	5	会員数が全住民1,000人に対し、6人以上となっている(10万人都市で600人)	5	5
		4	会員数が全住民1,000人に対し、4~6人程度となっている		
		3	会員数が全住民1,000人に対し、2~4人程度となっている		
		2	会員数が全住民1,000人に対し、2人以下となっている		
		1	会員組織そのものがない、あるいはまったく機能していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.3.2 ボランティアを組織化し、施設運営への協力を通じて文化芸術を身近にしている(ボランティア組織化)	5	施設が中心となって協力ボランティアを組織化し、さまざまな面で運営協力できる体制がある	4	4
		4	施設が中心となって協力ボランティアを組織化し、一部の運営協力ができる体制がある		
		3	施設が中心ではないがボランティア組織があり、部分的に協力してもらうこともある		
		2	ボランティアはいるが、組織化はされておらず、ほとんど施設の運営に協力してもらうことはない		
		1	ボランティアは活用していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.3.3 住民の自由参加型の文化芸術公演等を企画し、多くの住民を参加させている(住民参加公演)	5	さまざまな(複数の)参加型の公演を企画し、実践している	5	5
		4	年に1回、定期的・継続的に参加型の公演を企画し、実践している		
		3	数年に1回程度の割合で、参加型の公演を実施している		
		2	過去に実施したことはあるが、現在は休止状態である		
		1	住民参加型の公演は実施していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.3.4 多くの住民が親しめる地域伝統芸能などの継承に積極的に関わり、地域住民との関係を築いている(地域との関係)	5	地域の伝統芸能継承に積極的に関与し、施設と地域との密接な関係を築いている	0	0
		4	地域の伝統芸能継承に何らかのかたち(補助など)で関与し、地域と関係が築かれている		
3		地域の伝統芸能継承は事業の一つとして、事務的に対応している程度である			
2		地域の伝統芸能継承については、地域からの要望があった場合のみ対応する程度である			
1		地域伝統芸能の継承は地域などに任せしており、地域との接触はほとんどない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
3.3.5 ジャンルに縛られないさまざまな事業を計画し、実施している(その他の住民参加施策)	5	その他、さまざまな(複数の)参加型の事業を企画し、実践している	4	4	
	4	年に1回程度、定期的・継続的に何らかの参加型の事業を企画し、実践している			
	3	数年に1回程度の割合で、何らかの参加型の事業を実施している			
	2	過去に実施したことはあるが、現在は休止状態である			
	1	その他の住民参加型事業は実施していない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
文化芸術の底辺拡大機能ポイント			(3.3.1+3.3.2+3.3.3+3.3.4+3.3.5)÷(5-“0”の数)	4.50	4.50

評価項目/内容		評点	評価の基準	自己評価	機関評価
3.4 施設の情報を地域情報とともに行き届ける (情報発信機能)	3.4.1 積極的な情報発信を行っており、その結果、マスコミ等に取り上げられることが多い(マスコミ注目度)	5	マスコミ(新聞、テレビ、ラジオ等)に情報発信し、全国規模で取り上げられることが多い	3	3
		4	マスコミ(新聞、テレビ、ラジオ等)に情報発信し、地域(県)規模で取り上げられることが多い		
		3	たまに情報発信し、取り上げられる程度(年数回(2~3回)程度)		
		2	よほどのことがないと情報発信しないし、取り上げられることも少ない(過去数回程度)		
		1	ほとんど取り上げられたことがない(情報発信もしていない)		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.4.2 他の施設、他地域、他自治体からの注目を集めている(他自治体注目度)	5	問い合わせや視察が多い(年に数回(10回以上)はある)	2	2
		4	問い合わせや視察が比較的多い(年に5~9回はある)		
		3	問い合わせや視察がたまにある(年に数回程度)		
		2	開館直後は視察等があったが、現在は無い		
		1	過去も現在もまったく無い		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.4.3 地域住民に対して、施設の利用をアピールする工夫をしている(住民への情報発信)	5	定期的な施設の情報発信を全住民を対象に行っている(全戸配布等、広報誌等を除く)	5	5
		4	定期的な施設の情報発信を会員等に対して行っている(メールマガジン等)		
		3	定期的に広報誌やHP等に事業の案内を載せている		
		2	不定期であるが、事業の実施の案内の際に施設のことを紹介する程度		
		1	ポスターやパンフレットを置いておく程度で、特に積極的な情報発信は行っていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.4.4 専門誌や専門機関への情報発信を、投稿、講演、パネリストとして参加などにより積極的に行っている(専門機関への情報発信)	5	専門誌や専門団体機関紙への投稿、講演等を年数回(3回以上)は行っている	1	1
		4	専門誌や専門団体機関紙への投稿、講演等を年1~2回は行っている		
3		専門誌や専門団体機関紙への投稿、講演等を数年に1回程度は行っている			
2		投稿や講演等ほとんど行っていない(過去に1~2回程度あった程度)			
1		投稿や講演等はまったく行っていない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
3.4.5 関係者や同業者等との間でインフォーマルな情報交換を行っている(インフォーマル情報発信)	5	関係者や同業者間でのインフォーマルな情報交換を頻繁に(年5回以上)行っている	4	4	
	4	関係者や同業者間でのインフォーマルな情報交換を年数回(2~4回)は行っている			
	3	関係者や同業者間でのインフォーマルな情報交換をたまに行う(年1回程度)			
	2	関係者や同業者間でのインフォーマルな情報交換はほとんどない(数年に1回程度)			
	1	関係者や同業者間でのインフォーマルな情報交換はない(むしろ避けている)			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
情報発信機能ポイント			(3.4.1+3.4.2+3.4.3+3.4.4+3.4.5)÷(5-"0"の数)	3.00	3.00

評価項目/内容	評点	評価の基準	自己評価	従来評価	
3.5 施設の活動により、地域の経済活性化を図っている (地域経済への貢献機能)	3.5.1 地域の経済活動とタイアップした施設の運営が図られている (地元企業からの協力)	5	地域の企業等を施設運営のスポンサーにするなど、強い関係を築いている	4	4
		4	事業の実施に際して商工会議所、観光協会等とタイアップするなどの協力関係を保っている		
		3	チケット販売等で協力してもらうなど、地域の商店等との関係を維持している		
		2	地域の一部の商店等にポスター掲示に協力してもらう程度		
		1	特にタイアップする活動は実施していない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.5.2 事業の実施に際して、地域経済へ貢献するための工夫を行っている (地元企業への協力)	5	旅館、飲食店、タクシー、駐車場等の割引券を出すなどの相当の工夫を行っている	4	4
		4	関係者への情報(来街予定者数等)提供、逆に関係者からの情報提供(観光案内等)を行っている		
		3	特に工夫は行っていないが、聞かれれば答える(旅施設の紹介など)程度の情報は整理している		
		2	特に何もせず、問い合わせにも積極的に答える必要はないと考えている(情報も整理していない)		
		1	公立の機関であることから、紹介等はむしろ避けている		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.5.3 施設を中心として広域的なイベントを実施するなど、来街者を多くしている (来街者の拡大)	5	相当規模の来街者が見込めるイベントが、施設を中心に複数回実施されている	3	3
		4	相当規模の来街者が見込めるイベントが、施設を中心に年1回程度実施されている		
		3	規模は小さいが、定期的なイベントを実施している		
		2	数年に1回程度のイベントが実施されている		
		1	施設を中心としたイベントは行われていない		
		0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)		
	3.5.4 事業とは無関係でも、施設が存在そのものが観光拠点になるなど、地域経済への貢献度が大きい (観光拠点)	5	観光客へのサービスや、施設見学などを企画し、施設を観光資源化しており、来館者も多い	0	0
		4	観光客へのサービスや、施設見学などを企画し、施設を観光資源化しており、来館者も多少はある		
3		観光資源とまではいかないが、観光客へのサービスに努めており、来館者も多少はある			
2		特段、サービスには努めていないが、まれに観光客が来ることもある			
1		観光資源とは考えていないし、観光客が来ることもない			
0		元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
3.5.5 その他、地域経済との関係を常に意識した行動をとっている (経済協力意識)	5	地域経済との関係を常に意識し、経済活性化のためのさまざまな協力を行っている	3	3	
	4	地域経済との関係を常に意識し、経済活性化のためのいくつかの協力を行っている			
	3	具体的な協力関係はないが、地域経済との関係については常に意識している			
	2	常に意識とまではいかないが、何かあれば地域経済との関係を考える			
	1	今まであまり考えたことはない			
	0	元々そのような活動を目的としていない(評価対象外項目)			
地域経済への貢献機能ポイント		(3.5.1+3.5.2+3.5.3+3.5.4+3.5.5) ÷ (5-“0”の数)		3.50	3.50

3. 地域交流・地域貢献機能の評価	
3.1 住民が主体的に実施する文化芸術活動に「利用しやすい場の提供」を行うことで支援している(活動・交流の場の提供機能)	3.75 ポイント
3.2 地域の文化芸術団体等を支援することで、住民の文化芸術活動を活性化させている(文化芸術団体支援機能)	3.40 ポイント
3.3 住民が誰でも文化芸術に親しめるような工夫をしている(文化芸術の底辺拡大機能)	4.50 ポイント
3.4 施設の情報地域情報とともにできる限り発信している(情報発信機能)	3.00 ポイント
3.5 施設の活動により、地域の経済活性化を図っている(地域経済への貢献機能)	3.50 ポイント



地域交流・地域貢献機能の全体評価と課題

地域交流・地域貢献機能は、いずれの機能も3ポイント(標準値)を上回る評点を維持し、特に「3.3 文化芸術の底辺拡大機能」は評点4(やや高いレベル)以上を維持している。

「3.3 文化芸術の底辺拡大機能」については、前年度と変わらない評点4.50ポイントと、全評価項目中の最高評点を維持しており、ホール開館20周年記念のシリーズ企画として「ベートーヴェンをたたえて 第九」の公開リハーサルのほか、和楽器をテーマとしたオープンハウスなど、複数の住民参加型事業がジャンルにとられない内容で継続実施されている。

なお、会員組織化に関する評価項目では、友の会組織である「倶楽部E」の会員数は、前年度と同様に人口比で見れば比較的高い会員組織化率を維持しているものの、実数は減少しており、会員数の計画目標に対して7割前後の達成率に留まっている。

また、「3.1 活動・交流の場の提供機能」については、評点3.75ポイントと、前年度の4.00ポイントから低下しており、これは開館時間を評価する項目で、本年度の評価対象年度(27年度)は、修繕等の関係で前年度と比べて10日ほど開館日数が減少したことが要因である。

「3.2 文化芸術団体支援機能」については、新人・若手アーティストを対象とする文化芸術支援事業を継続実施しているほか、「絵手紙発祥の地-狛江」事業として、市内の有料老人ホームへのアウトリーチ活動(講師派遣・道具の貸出)を継続実施しており、前年度と同様の評点3.40ポイントとなっている。

今後の課題としては、文化芸術団体支援に関わる事業や地域の団体を支援するようなアウトリーチ活動の継続実施とともに、会員組織化率の維持・向上、住民参加型事業の継続実施のほか、「音楽の街-狛江」推進事業と「絵手紙発祥の地-狛江」事業を通じた、来街者が見込めるような事業の積極的な展開が求められる。

また、「3.4 情報発信機能」の向上にあたっては、狛江ならではの事業である「音楽の街-狛江」推進事業と「絵手紙発祥の地-狛江」事業について、より積極的に情報発信を行うなど、狛江の魅力を多くのメディアや人々に取り上げてもらう取り組みが大切と考える。

地域交流・地域貢献機能向上のための改善・改革の方向性

地域交流・地域貢献機能については、「3.3 文化芸術の底辺拡大機能」の維持とともに、引き続き「3.4 情報発信機能」と「3.5 地域経済への貢献機能」の向上を求めたい。

「3.3 文化芸術の底辺拡大機能」の維持にあたっては、ジャンルにとられない、多くの住民が参加する事業の継続実施が求められる。

「3.4 情報発信機能」の向上にあたっては、引き続き全戸配布の生活情報誌「わっこ」への広告掲載、FMラジオを通じたプロモーションの継続のほか、SNSの活用については、ツイッターによる当日券等の告知や、イベント情報の発信が行われており、公演情報が詳しく載っているホームページとのリンクとともに、例えば若者や親子向けの公演であれば、Instagramのような写真特化型のSNSを組み合わせることで情報発信を行うなど、SNSの効果的な活用が求められる。

また、「音楽の街-狛江」推進事業及び「絵手紙発祥の地-狛江」事業については、新聞や各種WEBニュースで比較的取り上げられやすいテーマと考えられることから、広域からの来街者を見込み、地域交流・地域貢献に寄与する狛江独自のコンテンツとして、今後も積極的な情報発信を図っていく必要がある。

「3.5 地域経済への貢献機能」については、引き続き「音楽の街-狛江」推進事業及び「絵手紙発祥の地-狛江」事業を着実に推進し、地域交流・地域貢献の視点で定期的・継続的にイベント等を開催し、来街者の拡大に貢献していく方向性となる。

なお、「3.2 文化芸術団体支援機能」については、新人・若手アーティストの活動に対する支援事業とともに、「絵手紙発祥の地-狛江」事業のアウトリーチ活動等を通じて、文化芸術に関わる地域の団体の活動を引き続き支援していく必要がある。

4. 成果指標の算出及び総合評価

4.1 マネジメント機能の成果指標

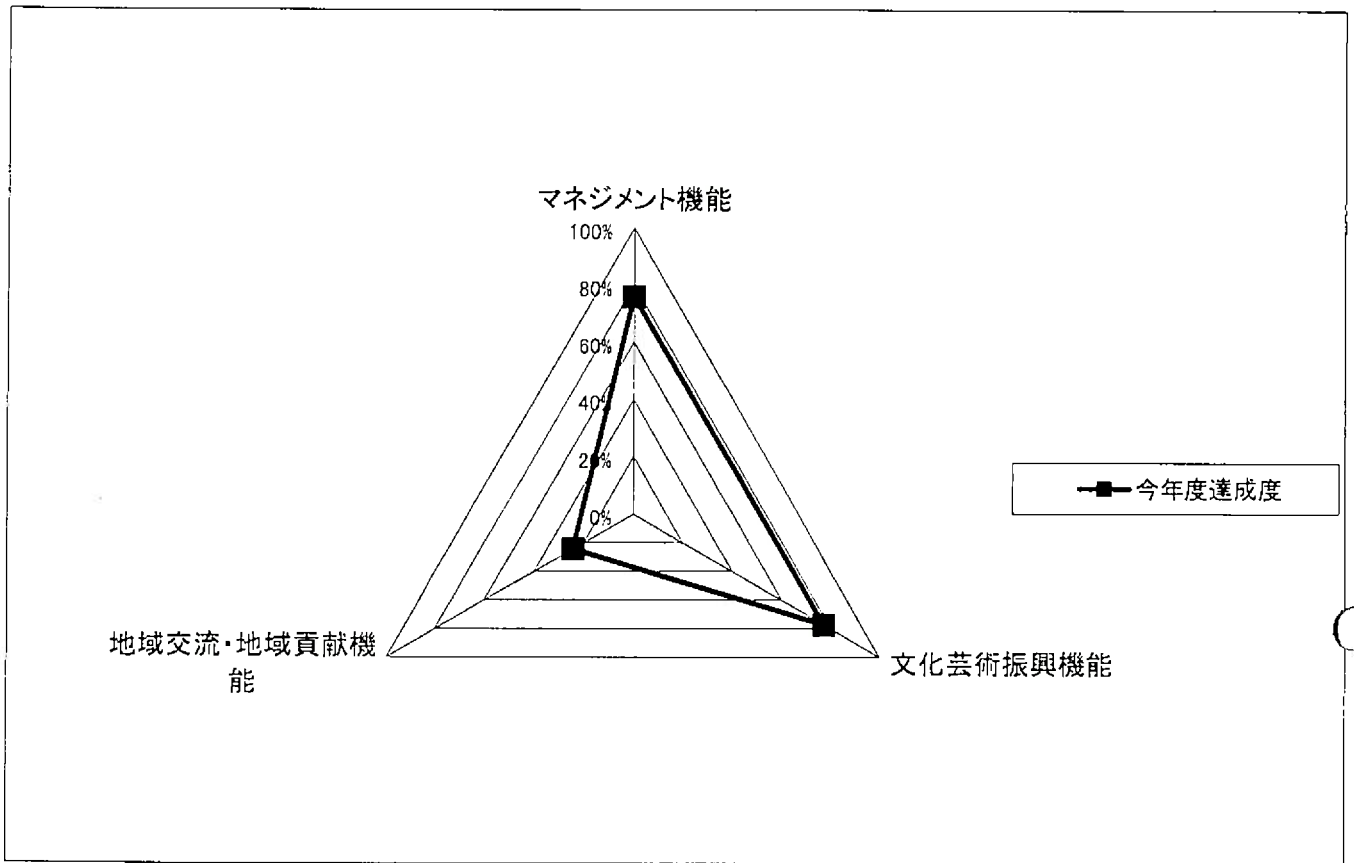
項目	平成26年度(千円)	平成27年度(千円)	備考
① 入場料収入	26,931	26,676	
② 貸館料収入	18,769	16,105	
③ 補助金収入(事業助成金のみ)	0	2,880	国県等からの補助、助成金
④ その他の収入	6,300	9,946	
⑤ 事業支出	36,951	41,467	
⑥ 施設維持管理費(委託費等を含む)	14,688	12,554	
⑦ 人件費	39,127	39,802	
⑧ 施設・設備減価償却費	9,507	10,120	
⑨ その他費用(支出)	367	474	
⑩ 経営収支比率 = ((①+②+③+④) ÷ (⑤+⑥+⑦+⑧+⑨)) ×100(%)	51.67%	53.25%	
⑪ 当該項目の標準値(目標値)(%)	70.00	70.00	ベンチマーク等
⑫ 達成度 = (⑩ ÷ ⑪) × 100(%)	73.81%	76.08%	

4.2 文化芸術振興機能の成果指標

項目	平成26年度(千円)	平成27年度(千円)	備考
① 人口規模(又はマーケットサイズ)	79,244	79,844	平成27年4月1日現在住基人口
② 自主事業観客数(文化芸術公演のみ)	9,807	10,443	
③ アウトリーチ活動聴衆者数	4,587	4,676	概数で可
④ 貸館による観客数(文化芸術公演のみ)	46,207	40,350	概数で可
⑤ その他鑑賞者数	0	0	
⑥ 文化芸術公演を鑑賞した住民の割合 = ((②+③+④+⑤) ÷ ①) × 100(%)	76.47%	69.47%	
⑦ 当該項目の標準値(目標値)(%)	90.00	90.00	ベンチマーク等
⑧ 達成度 = (⑥ ÷ ⑦) × 100(%)	84.97%	77.19%	

4.3 地域交流・地域貢献機能の成果指標

項目	平成26年度(千円)	平成27年度(千円)	備考
① 人口規模(又はマーケットサイズ)	79,244	79,844	平成27年4月1日現在住基人口
② 文化芸術団体加入者数	3,100	3,127	会員数
③ ワークショップ等参加者数	69	103	延参加者数
④ 発表会、リハーサル等の利用者数	2,598	2,436	延利用者数
⑤ 劇場ボランティア数	101	113	
⑥ その他利用者数(文化芸術活動のみ)	89	64	会議等は除く
⑦ 文化芸術活動に参加した住民の割合 = ((②+③+④+⑤+⑥) ÷ ①) × 100(%)	7.52%	7.32%	
⑧ 当該項目の標準値(目標値)(%)	30.00	30.00	ベンチマーク等
⑨ 達成度 = (⑦ ÷ ⑧) × 100(%)	25.06%	24.39%	



全体評価と課題

マネジメント機能については、評点4.40ポイントの施設維持管理機能をはじめ、5つの機能のうち3つが4.00ポイント以上を維持した一方、マーケティング機能は3.60ポイント、人事・組織活性化機能は標準点(3.00ポイント)を下回る2.75ポイントと、前年度からの評点の変化は見られないものの、マーケティング機能の価格戦略におけるセット販売の新規導入など、機能強化に向けた新しい取り組みが見られた。

文化芸術振興機能については、5つの機能のうち4つが4.00ポイント以上となり、残りの機能も3.00ポイント以上を維持しており、鑑賞者満足度向上機能(鑑賞者の公演に対する満足度)と関係者満足度向上機能(公演者の当施設の対応への満足度)はいずれも前年度評価を上回っており、『総合型の文化芸術振興施設』として求められる機能の向上が見られた。

地域交流・地域貢献機能については、文化芸術の底辺拡大機能は「音楽の街-狛江」推進事業及び「絵手紙発祥の地-狛江」事業をはじめ、住民参加型事業やアウトリーチ活動の継続が図られ、評点4.50ポイントと高い評価を維持しており、残りの4つの機能についても、活動・交流の場の提供機能で開館時間の減少による評点の低下が見られたものの、そのほかについて大きな変化は見られない。

成果指標については、マネジメント機能の指標が前年度を上回った一方、文化芸術振興機能、地域交流・地域貢献機能の指標は前年度を下回る結果となっている。「経営収支比率」は入場料収入、貸館料収入の減少を補助金収入が補うかたちで、事業支出と光熱費や軽微な修繕費など施設維持管理費など、支出が増加したにもかかわらず、収支が改善する結果となった。

「文化芸術公演を鑑賞した住民の割合」は、自主事業観客数やアウトリーチ活動聴衆者数が増加した一方、貸館による観客数が減少したことにより、前年度を下回る実績となっている。

「文化芸術活動に参加した住民の割合」は、発表会、リハーサル等の利用者数の減少が影響し、前年度を下回る結果となっている。

本評価の対象年度である27年度は、第三期指定管理期間の2年度目となり、以前から取り組んでいる鑑賞型・自主制作型・支援型の各事業、そして「音楽の街-狛江」推進事業や「絵手紙発祥の地-狛江」事業の継続・発展を図る年度と位置づけられる。

マネジメント機能では、セット販売という新たな価格戦略の実行、文化芸術振興機能では、価格面の負担軽減や施設対応の状況を反映した鑑賞者や公演者の満足度のさらなる向上、地域交流・地域貢献機能では、住民参加型事業として公開リハーサルの実施や和楽器をテーマに取り上げたオープンハウスの開催、アウトリーチ活動の継続と充実などが図られており、新たな顧客の開拓、設置自治体の文化芸術振興の方向性に見合った事業展開、市民とのコミュニケーションの深化といった課題への対応がまた一歩進んだと評価できる。

主な課題としては、マネジメント機能では、防犯面のリスクマネジメントの強化と観客動員率の維持・向上のためのマーケティング機能の強化、職員研修の充実、また文化芸術振興機能では、引き続き「鑑賞型」、「自主制作型」、「支援型」のバランスのとれた事業展開とアウトリーチ活動の成果を生かす新たな取り組み、そして地域交流・地域貢献機能では、住民参加型事業やアウトリーチ活動の継続、「音楽の街-狛江」推進事業や「絵手紙発祥の地-狛江」事業に関する積極的な情報発信があげられる。

今後の運営方針、改善・改革の方向性

短期的課題:

- ・指定管理事業の提案書に盛り込まれている研修メニュー（コンプライアンス研修、ホスピタリティの高度化研修等）の着実な実施
- ・防犯面の取り組みの強化にあたり、警察と連携した職員研修や講習会の開催など
- ・当施設が目指すべき方向性『総合型の文化芸術振興施設』に沿った事業展開
- ・「音楽の街-狛江」推進事業と「絵手紙発祥の地-狛江」事業をはじめ、狛江らしい文化芸術の総合的な振興を担う事業の発展・充実
- ・引き続きアンケート等を通じた要望や苦情等の把握と、それに対する迅速な対応
- ・狛江ならではの事業である「音楽の街-狛江」推進事業と「絵手紙発祥の地-狛江」事業について、より積極的に情報発信を行うなど、狛江の魅力を多くのメディアや人々に取り上げてもらう取り組み
- ・例えば若者や親子向けの公演であれば、Instagramのような写真特化型のSNSを組み合わせることで情報発信を行うなど、SNSの効果的な活用
- ・新人・若手アーティストの活動に対する支援事業とともに、「絵手紙発祥の地-狛江」事業のアウトリーチ活動等を通じて、文化芸術に関わる地域の団体の活動を引き続き支援

中長期的課題:

- ・販売チャンネルの多様化やセット販売をはじめとする独自の価格戦略の積極的な活用
- ・顧客データベースの活用
- ・アウトリーチ活動について、1年の活動の成果を総括するような企画やイベント、アウトリーチ活動をきっかけとしてホールでの公演開催につなげていく取り組み
- ・「音楽の街-狛江」推進事業及び「絵手紙発祥の地-狛江」事業を着実に推進し、地域交流・地域貢献の視点で定期的・継続的にイベント等を開催し、来街者の拡大に貢献